

しまだ小学校と高坂小学校の統合について(おたより詳報(令和3年12月))

- ・説明会の会場やアンケートのほか、メールやお手紙など教育委員会に対しこれまでいただいたご意見・ご質問と教育委員会の考え方をまとめたものです。
- ・内容について、趣旨の類似するものはまとめさせていただいたほか、原文を一部要約し、また分割して掲載しておりますのでご了承ください。

1 「通学区域の柔軟な対応」について


No	ご意見・ご質問	教育委員会の考え方
1	<p>(会場のご意見・ご質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい小学校を建築している間、高坂小学校に通うのは遠いので、違う学校に通うことはできるか。また、保護者の希望は聞いてもらえるのか。 ・高坂小学校・しまだ小学校以外の学校に通学することとなった場合に、新校舎の建設後に戻ってくることはできるのか。 ・「通学区域の柔軟な対応」について、行政区をまたいで、例えば緑区の黒石小学校を選択することも可能なのか。 ・高坂小学校・しまだ小学校以外の学校に通学することとなった場合に、中学校はどこに通うことになるのか。 ・隣の家の子と、自分の家の子で異なる学校に行くというのはバランスが悪い。選択よりも指定してもらった方がよい。 ・小学校1年生の児童は、高島一丁目からしまだ小学校 	<p>審議会から「起伏のある地域であることを踏まえた通学の負担面・安全面などを考慮し、統合時に通学距離が非常に長くなる児童については、通学条件などを勘案し、通学区域の柔軟な対応を検討すること」との答申を受けました。</p> <p>「通学区域の柔軟な対応」とは、通学区域の特例制度を想定しています。これは、通学区域の一部の地域で、指定された学校又は保護者の選択による学校に通学するというものです。地域活動の単位としての「学区」は変わらず、子どもの通学先だけが変わるものです。</p> <p>特例制度の実施に当たっては、次のような検討が必要になります。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学校を指定にするか、保護者の選択にするか（どこの学校にするか） ② 対象となる地域の設定 ③ 開始する年度・終了する年度の設定 ④ 受け入れ側となる学校の施設等の状況 ⑤ 通学路の設定 ⑥ 中学校ブロックが異なる場合の中学校の進学先 ⑦ すでに兄弟が通学している場合の対応 ⑧ 統合校の新築工事終了後の取り扱い 等 <p>特例制度は、行政区をまたぐ形で実施されている例もありますし、現に通学している小学校の進学先となる中学校を選ぶことも実際に行われています。</p>


	<p>に通うだけでも大変。例えば、高坂小学校に通う期間は、始業時間を考慮するなどしていただくとよい。集合時間が変わらなければ、保護者の負担も軽減される。</p> <p>(アンケートなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しまだ小学校に令和 5 年度に入学する児童が「通学区域の柔軟な対応」で、異なる学校を選択した場合、1 年で転校することになってしまうので、早めに対応を示してほしい。 ・兄弟姉妹で違う小学校に通うのは、保護者にも児童にも負担になるため、令和 8 年度以降も選択可能にしてほしい。 	<p>以上の事柄を踏まえながら、統合の決定後、令和 4 年度から始める予定の「STEP5 新しい学校づくり」の中で、保護者・学校・地域とともに実施の具体策を協議してまいります。</p>
2	<p>(会場のご意見・ご質問)</p> <p>「通学区域の柔軟な対応」がイメージできない。実際にはどのような事例があるのか。</p>	<p>「通学区域の柔軟な対応」とは、地域活動の単位としての「学区」(しまだ学区)はこれまでと変わらず、通学区域の一部地域で、指定された学校又は保護者の選択により、子どもの通学先だけが変わるもの(通学区域の特例制度)を想定しています。</p> <p>本市の小学校では、過大規模校の通学区域の一部となっている地区で、隣接する小規模校を保護者が選択できる措置をとっている事例があります。</p> <p>この 2 つの小学校は中学校ブロックが異なっていますので、小規模校を選択した児童は、過大規模校の進学先である中学校または小規模校の進学先である中学校のどちらかを選択できることとしています。</p>

3	(アンケートなど) 高坂小学校に隣接する小学校の通学区域の一部を、高坂小学校の通学区域とすることで、小規模校を解消することはできないのか。	上記事例における小規模校の選択率や、高坂小学校に隣接する小学校の通学区域に居住する児童数を踏まえて、通学区域の特例制度（選択）を実施したとしても、望ましい学校規模を確保することは困難であると考えています。
4	(会場のご意見・ご質問) 学校を選択できるようにすることのメリットとデメリットを提示した方がよい。	通学区域の特例制度（選択）により、通学距離の短い学校を選択した場合には、登下校時におけるメリットが生じると考えています。 一方で、選択によって同じ地域に居住している児童が別々の小学校に通学することとなる場合があります。このため、地域の皆様には登下校時の見守りや、地域活動の点にご配慮をお願いしたいと考えております。
5	(会場のご意見・ご質問) ・スクールバスを出す考えはあるか。 (アンケートなど) ・しまだ学区から高坂小学校に通う際、1, 2年生限定でもいいのでスクールバスを出してほしい。	通学は徒歩を基本とし、概ね2キロメートルを目安としておりますので、原則として、安全に通える通学路の設定や見守り活動により徒歩で通学できるよう対応してまいりたいと考えております。 詳細につきましては、No1のとおり、統合の決定後、令和4年度から始める予定の「STEP5 新しい学校づくり」の中で、保護者・学校・地域とともに実施の具体策を協議してまいります。

2 統合校の整備について

No	ご意見・ご質問	教育委員会の考え方
6	(会場のご意見・ご質問) 液状化について、今後も地盤調査を継続するのか。調査の結果、校舎が建てられないということがあるのか。	令和3年に実施した、しまだ小学校の敷地内でのボーリング調査は、現時点で調査可能な一地点において実施したものです。今回の調査結果のみをもって新校舎の整備をするという訳ではなく、新校舎の配置計画と並行し、適切な位置・箇所を選定して更なる地盤調査を行い、新校舎の基礎構造設計に反映することとしています。(学校の校舎建設をする際には、ハザードマップの表示の

		<p>如何にかかわらずボーリング調査を実施します。)</p> <p>地盤の液状化対策については、名古屋大学減災連携研究センターに「技術的観点から、地盤状況を踏まえた適切な液状化対策が行われれば、整備する校舎本体に安全面での大きな影響はない」とのご意見をいただき、審議会で報告しています。</p>
7	<p>(会場のご意見・ご質問)</p> <p>しまだ小学校の敷地の一部で、教育委員会が行ったボーリング調査では液状化の可能性がないと説明しているが、ハザードマップでは「液状化発生の可能性が高い」となっている。この点についてどう考えているか。</p>	<p>教育委員会で実施したボーリング調査は、校舎建設を想定し、地盤状況の把握を目的として実施したものです。一方、ハザードマップは、既存の地盤ボーリングデータ、地盤図や都市計画図等に基づき地盤モデルを推定して液状化を判定し、一定の区画ごとにその結果を示しているものであり、これらは比較するものではありません。</p>
8	<p>(会場のご意見・ご質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの辺りが土砂災害警戒区域になっているのか。 ・新しい学校のイメージ図でも、プールが土砂災害警戒区域に入るように見えるので、きちんと考えてほしい。 	<p>しまだ小学校の正門付近に土砂災害警戒区域等となっているエリアがあります。統合校の新校舎等の整備は、敷地内に土砂災害警戒区域等があることや液状化発生の可能性などを踏まえて対策を講じ、実施することについて、「名古屋市子どもいきいき学校づくり推進審議会」(以下「審議会」といいます。)でご審議いただきました。統合校の新校舎は、土砂災害警戒区域等の区域外に新築する計画です(詳しくは、下記のウェブサイトから「説明会資料2」の図をご覧ください。)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>高坂小学校としまだ小学校の統合に向けた説明会のウェブサイト</p> <p>https://www.city.nagoya.jp/kyoiku/page/0000143729.html</p>  </div> <p>いただきましたご意見も踏まえ、整備に取り組んでまいりたいと考えています。</p>

9	<p>(会場のご意見・ご質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しまだ小学校の敷地に隣接する鉄塔が心配である。 ・土砂災害警戒区域になっている斜面を含む山を削って整地し、鉄塔を移動することはできないのか。 	<p>しまだ小学校の敷地に隣接する鉄塔は、中部電力パワーグリッド株式会社が管理しています。</p> <p>審議会では、中部電力パワーグリッド株式会社から鉄塔の設計や安全管理（保守点検）について説明を受け、そのことを踏まえ答申が出されました。中部電力パワーグリッド株式会社からは、「令和元年 台風 15 号の鉄塔損壊事故」を受けて国にワーキンググループが設置され安全基準が変更されていること、また当該鉄塔はその基準をクリアしていることについて説明されました。</p> <p>審議の過程は以下のウェブサイトから、令和 2 年度第 2 回から令和 3 年度第 4 回の開催状況をご確認ください。</p> <div data-bbox="1021 603 2101 775" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>名古屋市子どもいきいき学校づくり推進審議会の概要</p> <p>https://www.city.nagoya.jp/kyoiku/page/0000124383.html</p>  </div>
10	<p>(会場のご意見・ご質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高坂小学校の場所にしまだ小学校の児童が通う際、高坂小学校の教室やトイレは足りるのか。 ・高坂小学校のグラウンドにプレハブの校舎を建てると、行事ができなくなるのか。 	<p>統合校を開校する際には、必要に応じて仮設校舎の活用を検討してまいります。仮設校舎の活用にあたっては、行事への影響が最小限となるよう努めてまいります。(なお、過去には、運動会を近隣の中学校で行った事例もあります。)</p>

11	<p>(会場のご意見・ご質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> 校舎の増築や、仮設校舎の設置では対応できないのか。 <p>(アンケートなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> 現校舎を使用しながら、新校舎を建築することはできないのか。 	<p>現在のしまだ小学校の校舎等を全面的に取り壊し、新築する施設整備の方向性で、審議会から答申が出ております。校地全体に関わる大きな工事となりますので、子どもたちの教育環境を考え、新校舎の建設期間中は、高坂小学校の場所で学校生活をしていただくことを想定しています。</p> <p>安心・安全で、魅力的な学校となるよう取り組んでまいります。</p>
12	<p>(アンケートなど)</p> <p>新校舎の建設期間が2年数か月となっているが、具体的に何か月なのか知りたい。</p>	<p>工事期間はできる限り短くなるようにしたいと考えていますが、現時点では具体的な期間をお答えすることができません。</p> <p>来年度予定している統合校の「基本設計」では、工期などを含めた全体のプランニングを行います。具体的な内容がお示しできる段階となりましたら、お知らせしたいと考えております。</p>
13	<p>(会場のご意見・ご質問)</p> <p>新しい学校の校門はどこになるか。</p>	<p>現在、しまだ小学校の校門は3か所ありますが、この位置から変更する予定はありません。いずれにしましても、令和4年度からの「統合校の新築工事の設計」の中で、校舎整備について具体的に検討してまいります。</p>
14	<p>(アンケートなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> しまだ小学校と高坂小学校それぞれの桜の木を統合校に植えて、統合校のシンボルとしてほしい。 	<p>統合により、子どもたちにとってよりよい教育環境を確保するとともに、統合が児童や保護者、地域の方にとって思い出深いものになるよう、いただいたご意見も参考に、取り組みを進めてまいります。</p>

3 通学について

15	<p>(会場のご意見・ご質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> 正門前の道路は、抜け道を利用する車で危ない。スクールゾーンにするなど、学校周辺の通学路の安全を検討してほしい。 	<p>通学路に関し、天白警察署や天白土木事務所には、統合の取り組みについての情報提供と、通学路が新たに設定された場合の施設整備などについて、相談しています。</p>
----	---	--



	<ul style="list-style-type: none"> ・高坂小学校までは、複数の信号があって不安。地域の方に見守りをしてもらえれば助かる。 (アンケートなど) ・しまだ学区から高坂小学校に通う場合、大根の交差点が危険なのではないか。 ・現在は、登校時に玄関まで見送りをすればよいが、当初は落ち着きがなかった。高坂小学校に通学先が変わると、何か所も信号があり、また一から見送りをするのは不安。見守りのボランティアさんはいついてくださるのか。 ・交通量の多い場所が通学路になると思われるので、地域の方々の協力をお願いしたい。 	<p>統合により、まず、しまだ学区から高坂小学校の場所への通学が始まり、統合校の整備が終わると、高坂学区からしまだ小学校の場所への通学が始まります。両校の保護者や地域の方々とともに、具体的な通学路の設定とその安全対策について検討します。また、子どもたちの通学練習会を実施する等、交通安全指導にも取り組んでまいります。</p>
16	<p>(会場のご意見・ご質問)</p> <p>通学路として、起伏が少ない黒石学区や桃山学区を通過することはできるか。</p>	<p>通学路は、学区の中を通る経路を設定するのが原則としています。多くの子どもが同じ道を通ること、地域の見守りの目が届きやすいこと、また、久方中学校の生徒も学区内を通して通学していますので、こうした点を踏まえ、学区内を通る通学路を想定しています。</p>
17	<p>(会場のご意見・ご質問)</p> <p>新しい学校を建築している間、しまだ学区の避難所はどうなるのかを明確にし、町内会を通じて知らせてほしい。</p>	<p>工事期間中の指定避難所については、地域防災に関わる学区の方や、区役所の防災担当部署等とともに協議・検討し、地域の皆様にお知らせしてまいります。</p>

4 其他のご意見・ご質問

No	ご意見・ご質問	教育委員会の考え方
18	<p>(会場のご意見・ご質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しまだ学童は学校の敷地内にある。学校を新築する際に、学童はどうなるか。 ・高坂小学校に通学する2年数か月の間は、高坂学童を使わせてもらいたい。 	<p>留守家庭児童育成会（いわゆる「学童保育所」）については、現在のしまだ小学校と同様、統合校の敷地内で活動されたいというお声をいただいております。所管局である子ども青少年局と連携し、対応してまいりたいと考えています。</p>
19	<p>(会場のご意見・ご質問)</p> <p>しまだ小学校では1クラス35人以上のクラスがあるが、教室が狭い。40人学級の考え方は変わらないのか。</p>	<p>1学級の人数について、現在名古屋市では、小学校1,2年生は30人を基本とした学級編制、3年生は35人、4年生以上は40人での学級編制となっています。（令和4年度以降、4年生以上も35人学級が段階的に導入され、令和6年度に6年生まで35人学級になります。）</p>
20	<p>(アンケートなど)</p> <p>統合して人数が増えることによって、新型コロナウイルス感染症対策が問題にならないか。</p>	<p>名古屋市では、学校の規模にかかわらず、すべての学校で感染症対策を行っており、感染拡大の防止に努めています。感染症対策を行いつつ、望ましい学校規模の確保に向け統合を進めることについては、審議会でも取り上げられ、審議されました。（令和2年12月14日令和2年度第2回審議会）</p> <p>コロナ禍でも「感染症対策」をしながら、「学びの保障」を続けていくことは重要です。学校教育ならではの学びである「協働的な学び合い」のためには、望ましい学校規模が必要です。感染症対策に取り組みながら、子どもたちのよりよい教育環境に向け、取り組んでまいります。</p>
21	<p>(会場のご意見・ご質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高坂小学校の場所で統合する際に、子どもの環境が大きく変わる。適応できなかつたり、保健室登校となつたりしまつたりする児童にはしっかり対応してほしい。 	<p>統合にあたっては、新たな人間関係をスムーズに構築できるよう、令和4年度以降、児童相互の交流活動を予定しています。交流活動は、各学年同士の交流や行事の合同実施など、できるだけたくさんの機会を捉えて実施できるよう両校と調整してまいります。これまでの統合校では、中津川野外学習での合同</p>

	<p>・子どもが慣れ親しんだ教職員がいなくならないよう、人事配置について配慮してほしい。</p> <p>(アンケートなど)</p> <p>・統合校の新築が完了し、高坂小学校からしまだ小学校の場所に移転する際は、児童のケアをしっかりとしてほしい。</p> <p>・令和4,5年度に実施する児童相互の交流について、詳しく知りたい。</p>	<p>ハイキングや、合同集会・遠足・校外学習、交流会といった取り組みをしています。</p> <p>児童のケアについては、スクールカウンセラーなども活用し、児童の心に寄り添いながら取り組みを進めます。</p> <p>児童や保護者を理解した教育が継続できるよう、統合前の学校の教員をバランスよく配置できるようにします。</p> <p>なお、3つの小学校が統合した西区のなごや小学校の子どもへのアンケートでは、「新しい友達ができうれしい」、「授業が楽しくなった」、「休み時間に遊ぶ友達や遊びの種類が増えた」、「行事(遠足や運動会など)で人数が増えて楽しくなった」、「たくさんの先生と話ができるのでよかった」といった声を多くいただいています。(「クラスや人数が増えてよかった」との回答者は、全体の75.6%となっています。)</p>
22	<p>(会場のご意見・ご質問)</p> <p>小学校の統合は、学区の統合という意味か。</p>	<p>教育委員会では、児童生徒の就学すべき学校の区域を定めており、この範囲を「通学区域」と呼んでいます。統合校の通学区域は、現在のしまだ小学校及び高坂小学校の通学区域となります。</p> <p>一方、地域活動の単位(学区組織)は、学校統合後も現在と同じ単位(しまだ学区)での活動となります。</p>
23	<p>(会場のご意見・ご質問)</p> <p>当初、高坂小学校と相生小学校の統合と聞いていたが、どのような経緯があったのか。</p>	<p>平成22年9月に策定した旧計画(「小規模校対策に関する実施計画」)では、統合の相手校の選定は「同一中学校ブロック内で隣接する小規模校対策の対象校」とされていたため、相生小学校との統合が想定されていました。旧計画では、保護者・地域等の代表者で構成する検討組織を学校ごとに設置し、関係する学校・学区の合同検討組織の中で合意形成を図り、進めていくこととしていました。しかしながら、高坂小学校と相生小学校の統合については、旧計画の計画期間内には具体の取り組みは進捗せず、統合には至りませんでした。</p>

		<p>平成 31 年度からの「ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画」では、審議会への諮問・答申を踏まえ、教育委員会が主体的に望ましい学校規模の確保に取り組むこととしています。統合の組み合わせは、隣接する学校の統合を基本とし、原則として同じ行政区内、同じ中学校ブロック内の統合を検討するとしています。この考え方のもとで未就学児のつながり、敷地面積、通学距離の目安、相生小学校の児童数の推計などを慎重に検討し、しまだ小学校を相手校として選定したものです。</p>
24	<p>(会場のご意見・ご質問)</p> <p>両校で PTA 活動のやり方も異なるため、教育委員会が調整をしてほしい。</p>	<p>統合の決定後、令和 4 年度から始める予定の「STEP5 新しい学校づくり」の中で、新しい学校（統合校）における PTA の組織や活動について、保護者・学校とともに協議してまいります。</p>
25	<p>(会場のご意見・ご質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高坂小学校の場所に通うのは不安である。統合してほしくないが、反対しても教育委員会が決定するのか。 ・高坂学区に反対運動があるようだが、対応しているのか。地域住民の反対によって統合が見通せなくなるということがあるのか。 <p>(アンケートなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの事例にとらわれず検討し、保護者の意見を細かく聞いてほしい。 ・反対の人の意見もしっかり聞いて、うまく落としどころを見つけてほしい。 	<p>保護者、地域の方からさまざまなご意見をいただいています。いただいたご意見も参考としながら、教育委員会では今年度に統合の決定をしてまいりたいと考えています。</p> <p>しまだ小学校・学区の皆様、また高坂小学校・学区の皆様のご協力を得て、子どもたちにとってよりよい教育環境を確保していけるよう努めてまいります。</p>

26	<p>(アンケートなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 検討や協議の過程と結果について、情報発信をしっかりとしてほしい。 ・ 今後、保護者や地域住民の意見はどのように集約していくのか。 ・ 在校している児童への説明はいつごろを予定しているか。 ・ 「通学区域の柔軟な対応」という部分をもう少し具体的に、再度説明会をしてほしい。 	<p>統合の決定後、令和4年度から始める予定の「STEP5 新しい学校づくり」の中で、保護者・学校・地域とともに実施の具体策を協議してまいります。</p> <p>保護者や地域住民の皆様へは、この「おたより」のように学校や地域の回覧等を通じてお知らせしてまいります。また、随時ウェブサイトでも情報提供するなど、適時適切な方法でお知らせしてまいります。</p> <div data-bbox="1025 363 2101 533" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>高坂小における取り組み（しまだ小との統合に向けた取り組み）</p> <p>https://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/11-10-5-5-4-4-0-0-0.html</p>  </div> <p>また、統合は、子どもたちにとっても重大な関心事ですので、統合決定後、発達段階に応じて適切な説明を行います。子どもたちが、統合に不安を感じることはないよう、教職員とスクールカウンセラーが連携を密にしながら、子どもたちの心のケアに努めてまいります。</p> <p>(「通学区域の柔軟な対応」についてはNo1をご参照ください。)</p>
27	<p>(会場のご意見・ご質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建て替えられた校舎に児童が移った後、今の高坂小学校の建物は残るのか。避難所として利用できるか。 <p>(アンケートなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高坂小学校の跡地に久方中学校を移転すれば、しまだ学区の児童にもメリットがあるので検討してほしい。 	<p>学校統合に伴い、小学校が担っている避難所機能をどうするかは、大きな課題であると認識しています。</p> <p>本市ではこれまで3つの統合校を開校しましたが、跡地となった6か所の旧小学校は、統合後もすべて指定避難所となっています。跡地の活用方法は、統合の決定後、地域に必要な避難所機能など地域の関係者等のご意見もお聞きし、関係部局とも連携を図りながら全市的な視点で検討してまいります。</p> <div data-bbox="1025 1177 2101 1347" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学校跡地の活用状況</p> <p>https://www.city.nagoya.jp/kyoiku/page/0000119794.html</p>  </div>